中学生年代の女子選手の現状

日本サッカー協会（JFA）では、女子サッカーの環境の充実を目指してさまざまな取り組みを行っています。ここでは中学年代の女子サッカーの現状をご紹介します。

●はじめに

日本サッカー協会（JFA）は、2014年5月15日に「JFAグラスルーツ宣言」を行いました。これは「JFA2005年宣言」の理念とビジョンに基づき、“誰もが・いつでも・どこでも”サッカーを身近に心から楽しめる環境を提供し、その質の向上に努めることを宣言するものです。

女子のサッカーにおいては、同年に「なでしこvision」を定め、日本女子サッカーのさらなる発展を目指しています。その中には「2030年までに、登録女子プレーヤーを200,000人にする。」という明確な目標も掲げています。

■ JFAグラスルーツ宣言

●日本における女子選手の現状

世界のトップ10の国々と比較しても、日本の女子選手は人口比が低いことが分かっています（図1）。登録者数は、2011年のなでしこジャパン（日本女子代表）のFIFA女子ワールドカップ優勝を契機に増加傾向にありましたが、2014年頃から頭打ちとなっており、5万人前後を推移しています。年代別で見ていくと、特に13歳～15歳で大きく減少しています。このへこみの解消が登録者数増加の鍵を握るとして、JFAではさまざまな施策を行ってきました。

しかし、近年、日本中学校体育連盟（中体連）に加盟している女子選手が多く存在していることが分かりました。この人数をJFAに登録している女子選手の人数と合わせると、大きなくぼみがなだらかなものになります。

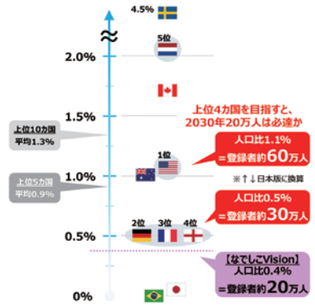
近隣に女子チームがない、自分に合ったクラブチームがないなどの悩みを抱える女子選手にとっては、中学校でサッカーを続けることは選択肢の一つだと言えます。

■世界トップ10との女子選手登録の比較

世界トップ10との登録比較

Rank	国名	女性登録者※1 (2019年度)	女性人口※2 (2019年度)	人口比
1	アメリカ	160.0万人	14,888万人	1.1%
2	ドイツ	19.8万人	3,678万人	0.5%
3	フランス	14.2万人	2,924万人	0.5%
4	イングランド	12.1万人	2,517万人	0.5%
5	オランダ	16.2万人	766万人	2.1%
6	カナダ	29.0万人	1,690万人	1.7%
7	スウェーデン	19.7万人	441万人	4.5%
8	オーストラリア	11.3万人	1,125万人	1.0%
9	ブラジル	0.3万人	9,770万人	0.0%
10	日本	5.1万人	5,547万人	0.1%

※1：Women's Football Member Associations Survey Report 2019（FIFA）
※2：各国の2019年度女性人口を、5～79歳間の人口数に絞って記載



■ 2019年度全国年齢別選手数

日本中体連　加盟生徒数集計（令和2年度）

部活動で男子と一緒に活動している女子選手数

北海道	
北海道	230

東北	
青森	83
岩手	79
宮城	119
秋田	11
山形	84
福島	**80**

関東	
茨城	215
栃木	94
群馬	100
埼玉	286
千葉	148
東京	555
神奈川	**298**
山梨	31

北信越	
長野	79
新潟	**48**
富山	**46**
石川	21
福井	**29**

東海	
静岡	**317**
岐阜	**96**
愛知	**211**
三重	**58**

関西	
滋賀	32
京都	**104**
大阪	**201**
兵庫	156
奈良	**28**
和歌山	14

中国	
鳥取	**37**
島根	37
岡山	113
広島	**143**
山口	62

四国	
徳島	43
香川	42
高知	15
愛媛	**59**

九州	
福岡	180
佐賀	36
熊本	**225**
長崎	**128**
大分	29
宮崎	**106**
鹿児島	183
沖縄	**260**

全国	5,551

※太字は、前年より増加した県
出典：日本中体連加盟校調査より
http://njpa.sakura.ne.jp/kamei.html

● JFAが行う取り組み

中学校の部活動で男子と一緒にプレーすることが可能ですが、JFAでは女子だけでプレーできる環境づくりにも着手しています。一例として、中学校部活動に加入してれば参加できる「中学校女子サッカー部フェスティバル」（下記参照）が挙げられます。また、都道府県サッカー協会（47FA）や中体連では合同部活動や合同練習会を行い、女子選手だけでプレーする機会をつくっています。中学年代の女子選手が増えれば、中学校の女子サッカー部ができるなど、より充実した環境が実現すると考えています。

中学校女子サッカー部フェスティバル

【2022年度 開催概要】

●目的
- 中学校女子サッカー部の存在・活動を広く知ってもらう
- 創部間もない、人数が少ないなど、大会や公式戦に出場できないチームの選手でもサッカーを楽しみ、サッカーを通じて仲間ができる機会をつくる

●対象
- 現在、JFAに加盟登録している、もしくは将来の加盟登録に向けて活動している中学校女子サッカー部。以下のチームも対象に含まれる
  - ○ 中高一貫校
  - ○ 近隣中学校の合同チーム
  - ○ 男子と一緒のサッカー部(第3種)に所属している女子選手だけを集めた合同チーム

  ※フェスティバル事業のため、JFAおよび全国中体連の競技会における合同チーム規程は適用しない。

●参加チーム数
- 1会場(1日)、8チーム程度
- 1チーム、選手8名以上、指導者(引率者)1名以上
- 原則、日帰り参加とする(どちらか1日のみ、または両日とも参加)

●期間・会場

回数	日時	会場	募集開始
第1回	9/24(土)、25(日)	熊本県(予定)	調整中
第2回	10/1(土)、2(日)	J-GREEN堺	調整中
第3回	10/15(土)、16(日)	高円宮記念JFA夢フィールド	調整中

「好きを諦めない。中学女子サッカーの部活動を考える」
パネルディスカッション レポート

◆登壇者
影山雅永（JFA技術委員会育成ダイレクター）
播戸竜二（JFASDGs推進メンバー/WEリーグ理事）
熊谷健太郎（神奈川県中学校体育連盟サッカー専門部副部長）
山本悠祐（石川県中学校体育連盟サッカー競技専門部委員長）

中学校部活動で多くの女子選手がプレー

影山　本日は「好きを諦めない。中学女子サッカーの部活動を考える」というテーマで議論していきたいと思います。日本における年齢別のJFA登録者数を見ると、小学生年代では多くの女子が登録していますが、中学生年代の13歳から15歳はその数が減少しています。これまではプレーする場が少ないことがその原因だと考えられてきましたが、実はJFAへの登録者数が少ないだけで、日本中学校体育連盟（中体連）に加盟してプレーしている選手も一定数いることが分かってきました。

◆女子サッカーデーとは

日本サッカー協会（JFA）は、国連が定めた3月8日の「国際女性デー」に合わせ、この日を「JFA女子サッカーデー」としています。「世界でいちばんフェアな国になろう」をスローガンに掲げ、性差や年齢、人種、障がいの有無などにかかわらず、誰もがサッカーをする、見る、参加する機会を享受できる環境づくりに取り組んでいます。

JFA 女子サッカーデー

山本　石川県では必ずJFAに登録することになっていますが、他県では中体連には加盟していてもJFAに登録していないという選手もいるようです。

熊谷　JFAへの登録はトップレベルの選手やチームがするもの、という先入観があるのかもしれません。神奈川県には部活動で一生懸命サッカーをしている選手は一定数いますし、女子選手を受け入れようと努力している先生が大勢いらっしゃるので、受け皿が少ないとは思っていません。受け皿があるという事実が保護者の方や選手に届いていないことが課題だと思います。

影山　もっと多くの方に女子の活動を知っていただき、JFAに登録するメリットについても発信していかなければならないですね。多くの方が関わっていることを知っていただくのが今回のメインテーマでもあります。熊谷さん、山本さんそれぞれの取り組みを紹介していただけますか。

熊谷　私は、神奈川県の横須賀ブロックで10年以上前から学校の枠を超えた学年ごとの選抜チームの活動を年に15回ほどしています。その活動を通じて、各部活で一人、二人の女子が男子と一緒に活動していることを知り、8年ほど前から女子を集めて練習会も行っています。

播戸　部活動で男子の中に女子が交じってサッカーをしていることを知らなかったので驚きました。男女別々に活動しているイメージがありましたし、僕自身、男女一緒にプレーした経験がなかったので、どういう形で活動しているのかすごく気になります。

熊谷　特別な感じではなく、男子も自然な形で女子を受け入れ、仲間としてやっています。今は少子化の影響で11人の選手がそろわない部活動も増えていますので、女子も部の存在を守る、もしくは戦力として活躍してくれる大事な仲間という感覚です。

◆横須賀市の取り組み

神奈川県中学校体育連盟サッカー専門部・横須賀ブロックでは、各校の女子選手を集めて選抜練習会を実施している。横須賀ブロックでは10年以上前から男子の選抜強化練習会を行っており、各校のサッカー部で女子部員が活動していることを知った熊谷健太郎氏が8年ほど前に女子の練習会を立ち上げ、現在は年間15回ほど活動している。今では県内の他地区でも同じような選抜活動や普及活動が行われており、交流戦をすることもある。

◆石川県の取り組み

石川県では山本悠祐氏が中心となり、2021年度に女子選手の合同練習会を立ち上げた。中学サッカー部に所属する女子だけでなく、高校女子サッカー部や幅広い年齢の選手が所属する女子フットサルチームも交えて合同練習を行うことで、縦と横のつながりを深めるとともに、中学サッカー部の女子部員を増やすことを目指している。今後はサッカーフェスティバルなど、練習会の成果を発揮できる舞台への参加も考えているという。

“男子サッカー部”ではないサッカー部もある

影山　神奈川県全体では何人ぐらい女子選手がいるのでしょうか。

熊谷　部活動だけに所属している女子選手が170人近くいるのは確認しています。昨日も横浜ブロックと横須賀ブロックの女子の交流戦を実施しました。

山本　交流戦などで関わりを持つと、高校に進学した時に横のつながりができているのでいいですね。

影山　チームとしてトレーニングしたことを披露する場があるのは選手にとって励みになりますよね。石川県では合同練習会を行っているそうですね。

山本　石川県はサッカー部のある中学校が45校しかなく、そこに所属している女子が15人います。サッカー部に入るハードルを下げて女子選手を増やしたいという思いで、2021年度に女子選手の合同練習会を立ち上げました。

影山　女子選手を増やしたいと思っても、中学生年代で男子に交じって活動することに対して二の足を踏んでしまうのではないかという懸念があるのですが、実際はいかがですか。

山本　小学生の頃から一緒ですので、選手たちは当たり前という感覚で練習もやりますし、練習後は会話もしています。

影山　山本さんから働き掛けはしているのでしょうか。

山本　新年度になると新入生向けの部活動紹介があるので、そこで必ず「男子サッカー部ではないので、女子も大歓迎です」と呼び掛けています。

影山　確かに、言われてみれば「サッカー部」と言っているだけで、男子限定ではないですからね。

山本　男女関係なく、もちろん経験者も初心者も関係なく、誰でも入れる部活動という形でやっています。今の学校には中学からサッカーを始めた女子もいます。興味のある子には積極的に声を掛けて、少しでもハードルを下げてあげたいですね。

更衣場所や帰宅時間など部活動ならではのメリットも

影山　ただ、全てが思うようにいくわけではないだろうな、とも想像できます。今だから言える苦労話はありますか。

山本　伸び伸びとやってくれる子、男子に負けず劣らず頑張る子もいれば、入部後に男子との関わりの中で引け目を感じてしまう子もいました。男子だから、女子だからと指導者側が変に意識すると、子どもたちはすごく敏感なので、私たち以上に意識してしまいます。部活動の中では男女は一切関係なく、みんな同じだという話をしながら、一対一の練習でも普通にボディーコンタクトをさせますし、いかなかったら「何でいかないの？」と問い掛けるなど、なるべく男女関係なく、ということを心掛けながらやっています。学年が上がるにつれてフィジカル面で差が出てきてしまい、男子が強く当たった時によろけるのを見ると悩む部分もあるのですが、当たるタイミングを学ぶ機会になるかな、と考えるなど、なるべくフラットな目線で見るようにしています。

熊谷　私は女子を集めてトレーニングをした時に、困っていることがあるかどうか聞いてみたのですが、そもそも男子の中でサッカーをやることを選んだ子たちは、女子だけの中でお互いに気を使ったり、変な人間関係が生まれたりするよりも、男子の中でやっている方がプレーに集中できるし、純粋にサッカーを楽しめるという声が多く、なるほど、と思うことも多々ありました。一方で、マネジメントの部分では、女子の練習時間をできるだけ早くして早めに帰宅させるなど、安全面にとても気を使っています。そういうこ

とも含めて先生方が一番重要な存在なのですが、皆さん公務や自分のチーム、ご家庭もあり、働き方改革という時代の流れもあるので、先生方に指導をお願いするという部分は今、特に悩んでいますね。

影山　中学に進学する際にスポーツをどう続けていくべきか悩んでいる小学生や親御さんも大勢いらっしゃると思います。そんな方々へのアドバイスをお願いします。

熊谷　女子特有の悩みとしては更衣の問題があると思いますが、部活動を行う学校にはたくさんの教室があるので、着替え場所に困ることはありません。また、授業が5、6時間目まであっても、目の前にグラウンドがあるのですぐに部活動を始められますし、17、18時に帰宅し、食事を取って勉強や家族との団らんの時間をつくることができます。自分で24時間をデザインする力を育めることや、安全面の部分も部活動の利点だと思います。また、1年生から3年生まで学年を越えて同じ活動をするので、思いやりや気遣いなど、人間教育の部分でのアプローチもしやすいですし、われわれも授業や給食、掃除など、日常生活の場面から子どもたちを見てアドバイスや指導をすることができます。今は中学校にもC級ライセンス以上を取得し、クラブチームのコーチに負けないぐらいの指導力を持つ先生方が大勢いらっしゃるので、子どもたちのレベルに合わせた指導ができる環境が整っていると思います。

山本　石川県にはそもそも女子のクラブチーム自体が少なく、練習に通うには電車に乗って移動しなければならず、そこにハードルを感じてしまう部分があります。私の娘も小学校時代からサッカーをしていて、中学に進学する際にクラブチームも選択肢としてあったのですが、やはり電車で片道30分ぐらいかかり、帰りは最寄り駅から自宅まで暗い夜道を歩かなければならないという問題がありました。部活動に入れば目の前にグラウンドがあり、更衣の問題もクリアできるというのは大きなメリットですし、選択肢の一つとして考えていただきたいと思います。

男女一緒でも問題なく活動できる

影山　そうは言っても、保護者の方々の中には不安をお持ちの方も大勢いらっしゃると思います。そういう声を聞かれたことはありますか。

熊谷　強いて挙げるとすれば、男子からプレーの失敗を少し強く言われる気がするだとか、女子が二人いる部活動でちょっと仲たがいした時にどうなるかが心配です、というのは多少あります。ただ、親御さんからはそういったことも含めて乗り越えてほしいという声をいただいていますし、不安視しているというよりも温かく見守っていただいているという感覚です。

山本　どの部活動に入るにしても、保護者の方はいろいろな不安があると思います。中学校に入ると部活動が始まり、3学年いる中で活動しなければならない、うまくやっていけるのか、という不安がそもそもあるので、大勢の男子の中に女子が一人で入ることはそれほど懸念していないように思います。もちろん、今まで女子選手を受け入れてきた中で、男子とうまくやっていけないという相談を保護者の方から受けたことはありましたが、最終的には何も問題なく3年間一緒に活動することができています。

影山　保護者の方から男子と一緒の活動を不安視する声があり、熊谷さんや山本さんが背中を押してやっと足を踏み入れるような現状があるのではないかと想像していたので、少し意外でした。

播戸　やりたい子は大勢いるでしょうし、親御さんもやらせてあげたいというマインドになっていると思います。受け入れる側と、みんなで一緒にやろうという考えの人たちを増やしていくことが大事だと思いました。

影山　播戸さんはWEリーグの理事もされています。WEリーグの選手たちと会話する場面もあると思いますが、中学生の頃のプレー環境について聞くことはありますか。

播戸　選手たちの過去について話を聞いたことはないですが、昨年『さよなら私のクラマー』（※）という映画を見まして、「こういうことってあるの?」と聞いたら「あれがリアルです」という返答でした。あの映画に出てくることが女子の中での問題、課題としてあるという話をみんながしていたので、ぜひ映画を見てほしいですね。

※女子サッカーをテーマとした漫画『さよなら私のクラマー』（原作　新川直司）の映画『さよなら私のクラマー　ファーストタッチ』。女子中学生のサッカー選手が、男女の壁にぶつかりながらも、それを乗り越えるために奮闘する青春を描いている。

熊谷　私も見ました。子どもたちと一緒に見る機会をつくれたらよかったなと、反省しました。

播戸　女子はこういう気持ちでやっているのか、というのは見ないと分からなかったですし、僕自身、女子と一緒にやったことがなかったので勉強になりました。男子も女子も「こういうことがあるのか」と分かった上で活動すれば全く違うものが見えてくるでしょうし、理解することがすごく大事だと思いました。

積極的に情報を発信して女子選手を増やしていく

影山　熊谷さん、山本さんのこれまでの話を聞いてきて、女子が男子に交じって活動することへのハードルはそれほど高くはないと感じました。今後の展望を聞かせてください。

山本　いかに情報を発信していくかを石川県サッカー協会と話し合っています。サッカーをするにはどうすればいいか、サッカー部に女子は入っていいのか、という情報をこちらから発信していかないと、受け取る側は何も知らない状態です。多くの情報を発信するための方法を検討しているところです。それから、女子選手の人数を増やして近隣の県との対抗戦や交流戦をしたいと考えています。

熊谷　チーム神奈川として一堂に会したトレーニングセッションや活動ができたらいいなと思っています。また、そこから能力のある選手を県のトレセンに入れるなど、強化にもつなげていきたいと考えています。普及の面でも、小学生年代や高校年代との合同トレーニングや指導者同士の交流ができればいいと考えています。

播戸　お二人からJFAに対する要望はありますか。

熊谷　昨年10月の「第4回中学校女子サッカー部フェスティバル」は高円宮記念JFA夢フィールドで開催され、子どもたちはもちろん、指導者にとっても素晴らしい経験となりました。次回は播戸さんや影山さんにも参加していただきたいですね。

播戸　盛り上げコーチとしてぜひ参加したいですね。影山さん、一緒に行きましょう。山本さんはいかがですか。

山本　石川県の場合、都心まで行くのが物理的に難しいので、各地域でフェスティバルが開催されるようになってほしいですね。そうすればより多くの県で女子の活動が普及していくと思います。

影山　サッカーをやりたいけどどうすればいいのか分からない女子選手、サッカー部には男子しか入れないだろうと諦めている女子選手が大勢いると思います。部活動でサッカーをする女子選手を増やしていくためにも、JFAとして積極的にサポートしていきたいと思います。

第4回中学校女子サッカー部フェスティバル

［JFA登壇者プロフィール］

影山雅永（かげやま まさなが）

1967年5月23日生まれ、福島県出身
選手としてジェフユナイテッド千葉や浦和レッズでプレー。1986年から指導者に転身し、サンフレッチェ広島のコーチやファジアーノ岡山の監督を歴任。2017年にU-18日本代表監督に就任し、19年のFIFA U-20ワールドカップでU-20日本代表をベスト16に導いた。21年にJFAユース育成ダイレクターに就任。ユース年代の育成や環境整備を行っている。

播戸竜二（ばんど りゅうじ）

1979年8月2日生まれ、兵庫県出身
1998年にガンバ大阪へ加入。FWとしてプレーし、天皇杯 JFA 全日本サッカー選手権大会、Jリーグカップ、AFCチャンピオンズリーグなど数々のタイトルを獲得。U-20日本代表の一員として臨んだ99年のFIFAワールドユース選手権（現、FIFA U-20ワールドカップ）では、国際サッカー連盟（FIFA）主催大会で日本初となる準優勝を果たした。2019年に選手を引退し、20年3月にJリーグ特任理事、同年9月にJFA SDGsプロジェクトメンバー、21年2月にWEリーグ理事に就任した。